

6. 匿名相談アプリ「STANDBY（スタンドバイ）」の取り組み状況と

今後の展開について」

スタンドバイ株式会社 代表取締役

谷山大三郎先生

（谷山） はい。ありがとうございます。スタンドバイ株式会社の代表を務めております、谷山大三郎と申します。私は匿名相談アプリ「STANDBY」というものを自社で開発をして、柏市様をはじめ、30 の自治体様に展開をしております。いじめ防止の取り組みではあるんですけれども、チャットでのオンラインカウンセリング、そういったところにかかわりがあると思ひまして、今日お招きいただいたと思っております。

<スライド>

では、自己紹介に続いてお話を続けさせていただきます。あらためて、私はスタンドバイ株式会社の谷山ですけれども、3 行目のところ、千葉大学教育学部附属教員養成開発センター特別研究員等も務めておりまして、千葉大学にもかかわらせていただいております。

<スライド>

最初にお伝えした通りですけれども、匿名報告アプリ「STANDBY」というものを開発して、学校で配布される 1 人 1 台端末、あるいは個人のスマートフォンでチャットで相談できる仕組みを提供しています。主に使うのは子供、小学生とか中学生で、いじめを受けている、あるいは友達がいじめを受けていて助けたいと思っている子供が、助けるために教育委員会に直接相談する手段としてこのアプリを使って相談をしています。

<スライド>

なぜこれが必要と考えたか。それらも含めて少し私の背景もご紹介できればなと思っております。もともとずっといじめ問題に関心があって、これは 2015 年から 7 年間、今たっているんですけれども、それは私自身が いじめ被害者だったということが率直な理由です。やっぱり苦しいときほど SOS を出せない。私、両親が好きだったので、だからこそ絶対相談しないとか。

ただ、こういう社会になってほしいなと思ったのは、SOS を出さない私に対して学校の先生が気付いてくれて助けてくれた。これがすごく私には大きくて、たった 1 人、誰か大切に思ってくれる人がいたら生きていこうと本当にそのとき思えて、だから今、苦しんでいる子供にも、今度は自分が恩返しする番だと思ひ活動を持っています。

<スライド>

いじめ問題はまさにメンタルヘルスとかかわってくる部分があると思うのは、いろいろな研究の中でも1つ、7歳と11歳のときにいじめに遭っていたと親によって報告された人は、45歳の時点で自殺傾向を有していたり、うつ病、不安障害、アルコール依存の診断を持つ傾向が高い。こういった調査結果も明らかになっています。いじめってうつ病とすごく関連があるということがいろいろなところでいわれていて、だからこそ認知行動療法にはすごく私も期待をしていて、全国に広がってほしいなと思っています。

<スライド>

今、いじめの問題って皆さんも記事で見ることが多いと思うんですけど、研究は進んでいるんですけど、まだまだすごく悲惨な事案も多いというのが現状です。

<スライド>

だから私は苦しいとき声を上げてもいいんだよ。安心して相談できる。そんな当たり前が増えれば、子供たちが救われて、そういう子供たちがさらに誰かを救うような、そんな連鎖が生まれないかなと思って、このアプリを作っています。

<スライド>

先ほど柏市教育委員会でも導入いただいているというふうにお伝えしましたが、仕組み、座組としてはこういう座組になっています。左側は子供で、いじめに悩む子供たちが匿名で報告、相談ができる。ただ、半匿名にして学校、学年だけは識別可能な形で相談を受けているようにしています。

教育委員会、あるいは外部相談窓口、例えば大きなところというと、名古屋市が小中、あと市立の高校すべて導入いただいているので、その場合、相談の数が多いので教育委員会が受け止めるのではなく、第三者のカウンセラーの団体がまず受けて、返して、それで適宜、教育委員会と共有するような、そういう座組で行っています。このまま匿名でチャット相談をしていって、必要に応じて学校と連携する。あるいは警察、児童相談所等とも受け手の団体が連携する。そういった形で問題解決を進めていっています。

<スライド>

あと私はもともと教育学部出身で、今も教育学部にかかわっているんですけど、システムだけではどうしても解決できないということは常に痛感するところもあって、そのシステムを使う前に子供たちにいじめ防止の授業を行って、このアプリの使い方もその50分の授業の中で伝えて、子供たちがSOSの出し方としてのシステムを理解して使っていただいている。そういったことを行っています。

<スライド>

2017年は36校で、本当に最初、広げる段階はすごく苦労したんですけども、成果が出たり、あるいはいろいろな方に紹介をいただいて、今は1196校、34万人の子供が対象として使っていただいています。

<スライド>

全国としてもこういった形で、東日本から西日本の方にかけて導入いただいているような状況です。

<スライド>

実際、実効性、成果のところなんですけれども、例えばこれはある自治体のデータで、まず相談しやすい窓口ということで、もともと電話やメールの相談窓口があったんですけど、子供たちの相談件数を１年間で比較すると、電話、メールの約９倍になりました。それから、これはいじめ特有かもしれないんですけども、GIGA 端末、１人１台端末で子供たちがパソコンを持っているので、そこにほとんど登録できる状態。学校に協力いただいて登録していただくことで、90%以上の登録率になりました。これによっていじめの抑止になったんじゃないかというところも報告としていろいろ受けています。

さらに傍観者の行動促進。私が一番やりたかったことなんですけれども、授業も含めて、あるいは、このシステムも含めて使い続けることで、いじめの相談の中で自分がいじめられましたという相談と同じぐらい、友達がいじめられたので助けてください、そういった声も50%になりました。さらに、オンラインのチャットだけで解決しない場合もあるんですけども、本人とのチャットの中でカウンセラーの方と話してみませんか、そういったことをやりとりして３人に１人が対面で介入した状況なんかも生まれています。

<スライド>

何より私自身が一番受け止めたかった、死にたいです、そういった言葉も本当に多く届いていて、そういったところも本人の話を継続して受け止めて、カウンセラーとの相談を提案、それで名前も教えてくれて直接つながった。そんな支援もあったりします。

一方で、ここは課題もあって、チャットでのカウンセリングをする人がどう育成していくか。その部分というのは引き続き取り組み続けなければいけない。受け手の体制面というところの課題はあるものの、これまで救えなかった子供を救えているなというところが実感としてはございます。

<スライド>

これは柏市教育委員会様に、使って１年後にどういう意味がありましたかというところを、未然防止から対応のフローでお話しいただいたところです。もともと導入の理由としては、いじめ被害を相談できない子がいることに課題感を持っていた同市は、相談窓口を拡大しカウンセリングでの問題察知を目的に導入したと。

未然防止の方は、いじめの抑止力として、いじめ防止授業を、我々が出張授業を行って、各校を回って行いました。早期発見として、先ほどお伝えした９倍の相談件数になる。あるいは、第三者からのいじめ報告が増加することで、今まで見えなかったいじめの発見もかなりの部分ありました。対応のところも、介入機能としてもつながる部分があって、いじめの問題には重大事態といわれる長期欠席とか、命にかかわる事案、そういったものが重大事態と呼ばれるんですけども、そこを防ぐことができた件数も多く見られたというふうな結果としては残っています。

<スライド>

今後の展望というところで、冒頭にもお伝えしましたが、認知行動療法をすべての子供たちに受けてほしいというのは率直に思っています。

<スライド>

それはいじめの問題って今だけじゃなくて、10年後も20年後も30年後もその子にとって残ってしまう。もしかしたら当事者の私も残っているんじゃないかというところが広がってほしい理由でもあるんですけども、そういったのが何とか広がってほしいなと思っています。我々としては、何かそういう系口にならないかなというところで、困っている子供、相談できない子供を受け止められないかなというところで、毎日の心のチェックなんかをして異変を見つけるとか、いじめアンケートを統計解析して、この子は危険ですよとアラート信号を出して先生が動いてくれるとか、カウンセラーの先生につなぐ、そういった取り組みなんかをしています。

<スライド>

実際、GIGA 端末が広がっていく中で、本当に小学校、中学校の可能性というところもすごく増えてきました。まだまだオンラインでできることは限られるんですけども、可能性としては私もすごく信じていて、

<スライド>

このシンポジウムにかかわらせていただいたことをすごく光栄に思っております。

<スライド>

最後に、私自身が会社を通して、あるいは自分を通して行いたいことは、手を差し伸べられた経験をたくさん増やすということを大事にしています。私自身が信じていることなんですけど、人に助けられた人ってきっといつか人を助ける側に今度はなるんじゃないかな。なので、たくさんの子供たちがちょっとでも苦しんでいたら手を差し伸べられるような、そういう当たり前をどんどん増やせば、手を差し伸べる人が増えて社会がよくなっていくんじゃないかなと思っています。

その中に、このシンポジウムで詰まっているたくさんの知見も世の中を変えていくんだなと思っています。あらためまして今後ともよろしくお願いします。以上で終わらせていただきます。